

被爆ピアノの音色響かせ

市公会堂で演奏会
100人が平和に思い

八戸

八戸市で原爆被害に遭い、奇跡的に残った「被爆ピアノ」を使った平和コンサートが11日、八戸市公会堂で行われた。観客約100人が、平和について考えながら、演奏に耳を傾けた。

被爆ピアノは、1945年8月6日、爆心地から2キロ以内の民家で被爆。所有者から譲り受けた八戸市出身のピアノ調律師矢川光則さんが演奏できるように修理した。

コンサートでは、八戸学院大学短期大学部幼児保育学科の生徒がハンドベル演奏を披露。同大学の講師によるピアノ演奏では、シヨパンの「小犬のワルツ」

やラフマニノフの「ヴェーガシリーズ」が演奏された。ステージ上では戦争の悲惨さや教訓を伝えるスライドショーや絵本の朗読などが

行われた。

コンサート後は被爆2世でもある矢川さんが講演し、平和への思いを語った。

（高松拓輝）



被爆ピアノの演奏が行われたミニコンサート